

## 大学生の SNS 使用，社会関係資本と孤独感の関係について —LINE・Twitter・Instagramの比較を通して—

川上 将太

コロナ禍 3 年目は 1 年目に比べて，対面によるコミュニケーションが多くなってきているが，コロナ前に比べて依然として多くの面で制限されている．それゆえ，対面の対人関係によるサポートが不十分となり，必然的にオンラインに頼ると考えられる．しかし，対面による社会的ネットワークは孤独感を低減させる効果があったが，オンラインによる社会的ネットワークは同様の効果はなかった（五十嵐，2002）．また，コロナ禍における Twitter 使用について，西堀・叶（2021）は 1 回目の緊急事態宣言が解除された直後に実施した調査では，これまで対面によるコミュニケーションでしか得られなかったサポート特に情緒的サポートが Twitter 上でも獲得することができるようになったと報告した．

孤独感の生起には，何らかの個人特性が社会的ネットワークの形成・維持を困難にする「社会的ネットワーク媒介モデル」と自己や他者に否定的な人が社会的ネットワークを過小評価する「認知的バイアスモデル」による 2 つのメカニズムがあるとされている．社会的スキルや社会的寛容性，一般的信頼感の高い人は孤独感を低減させることが予想できる．LINE はクローズドで，Twitter は見知らぬ他者にも関係を持ちやすいメディアであるため，この 2 つの SNS を併用し，充実した対人関係を築くことができれば孤独感への低減効果が予想できる．一方，Twitter や Instagram を使用した場合，自己呈示された他者の投稿と自分を比較し，認知的バイアスモデルに陥る可能性がある．そこで，本研究では一般他者に対する信頼感や社会的スキルなどの個人特性と共に，互酬性の規範を包括する社会関係資本（対面とオンラインの両方）を取り上げ，LINE・Twitter・Instagram の使用がいかに孤独感と関係するのかを明らかにすることを目的とした．

上記の目的を検討するために，2022 年 8 月上旬から 9 月下旬まで大学生を対象にオンライン調査を実施した．Twitter のみの使用者群(359 名)，LINE と Twitter の使用者群(348 名)，及び Instagram と Twitter 使用者群(270 名)に分け，分析を行った結果，以下のことを明らかにした．①社会的スキルや一般的信頼感，社会的寛容性，自己肯定感と自己意識が高く，対面での社会関係資本を醸成させ，これを介して孤独感を低減させることができた．② Instagram と Twitter 使用者群において，SNS 使用が孤独感を低減させる効果が見られたが，SNS 使用がオンライン上の社会関係資本を醸成させ，これを介して孤独感を増加させ，比較したところ後者の効果が強かった．本研究の結果から，①大学生の社会的スキルや一般的信頼感，社会的寛容性，自己肯定感を高めると共にアイデンティティを確立することが孤独感の低減には有効であることが示された．②視覚的匿名性が高い Twitter と，過剰な自己呈示が行われやすい Instagram を併用した人はその特性を理解し，過剰な自己呈示を行わないだけでなく，他者と過度な比較をしないよう注意する必要性が示唆された．

（指導教員 叶 少瑜）